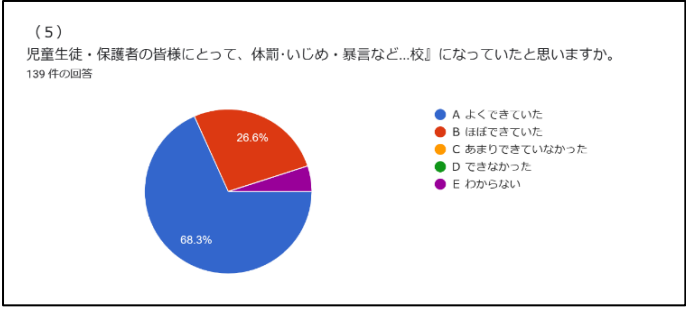
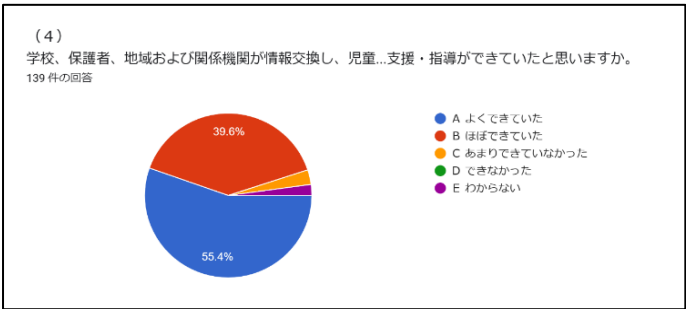
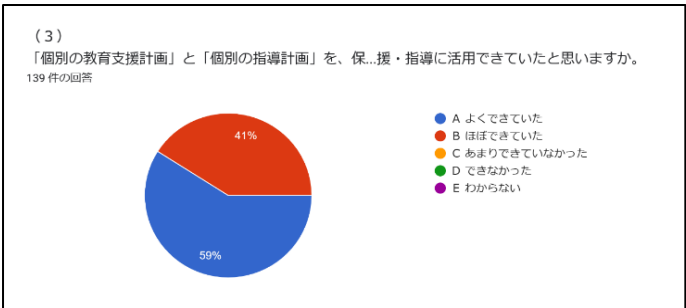
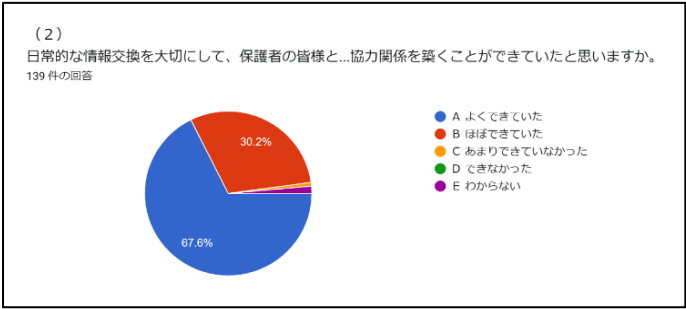
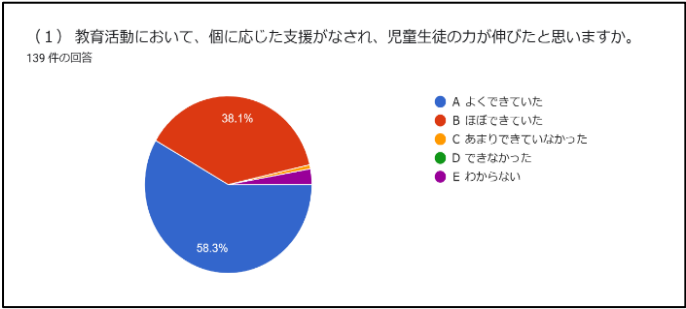
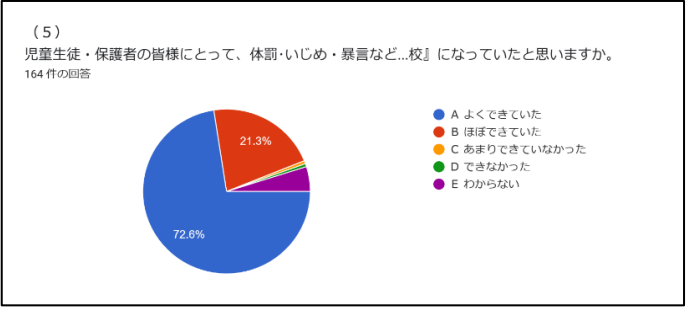
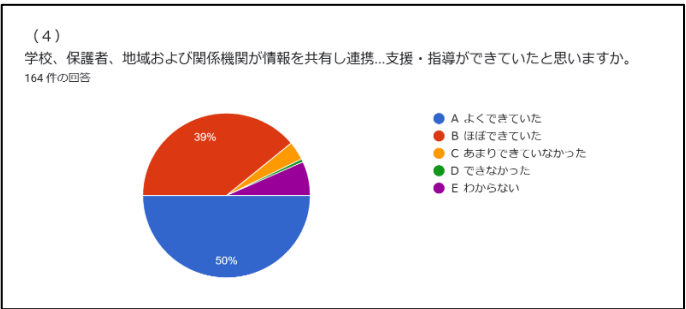
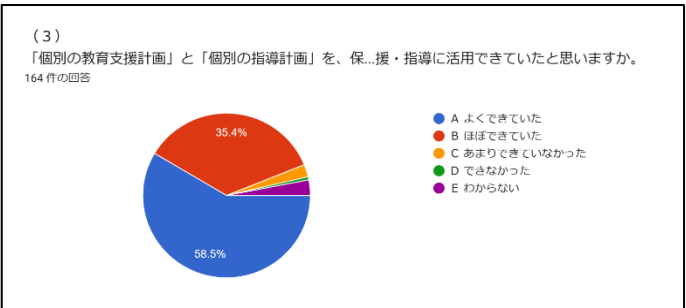
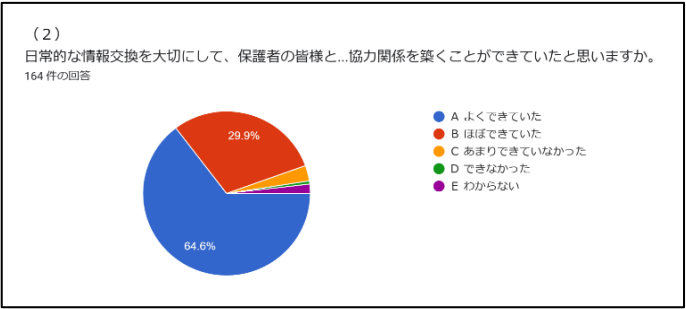
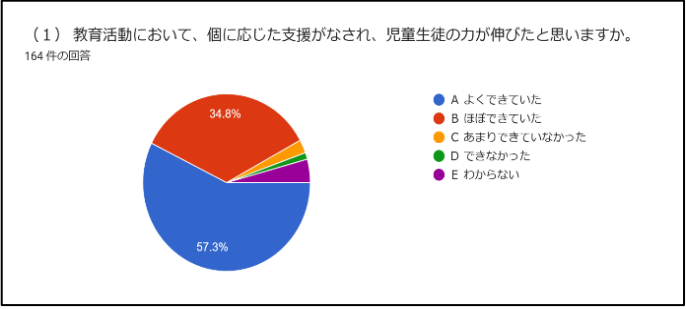


アンケート集計結果 【保護者】

【R 5 年度】



【R 6 年度】



R6 年度 学校自己評価アンケートより

○R5 年度の回答数(139) R6 年度の回答数(164)と、少しではあるが回答数が増えている。

- ・ Google フォームでの実施 2 年目だが、おおむね好評であり、来年度もこの形で実施していきたい。
- ・ 前日にオクレンジャーで再度呼びかけ、気づいてもらい、回答していただくことができた。

○R5 年度と R6 年度の結果で大きな変化はみられなかったが、A:よくできていた B:ほぼよくできていたをまとめた割合で比較すると、R5 年度より R6 年度は、A・B の割合が低くなっている。

○記述欄には、「できなかったことができるようになった」「学校に行くことがとても楽しみ」など、肯定的なご意見が多くあった。一方で、「個別の能力を伸ばす時間がとられていないと感じる」「個別の宿題が学習レベルと合っていないのでは」というご意見もあり、個に応じた支援への保護者のニーズが高いことを改めて感じた。

①教育活動において、個に応じた支援がなされ、児童生徒の力が伸びたと思いますか。

<A・B の割合> R5 年度：**96.4%** R6 年度：**92.1%**

<C・D の割合> R5 年度：**0.7%** R6 年度：**3.6%**

<E の割合> R5 年度：**2.9%** R6 年度：**4.3%**

A・B の割合は 4,3%減少した。記述欄には個別の能力を伸ばす時間や、宿題についてのご意見があった。支援者間でどのような力を伸ばしていきたいかについて共通理解し、本人が「こうなりたい」という願いが実現し、「できた」を積み重ねられる支援を行っていきたい。

②日常的な情報交換を大切にして、保護者の皆様と協力関係を築くことができていたと思いますか。

<A・B の割合> R5 年度：**97.8%** R6 年度：**94.5%**

<C・D の割合> R5 年度：**0.7%** R6 年度：**3.6%**

<E の割合> R5 年度：**1.4%** R6 年度：**1.8%**

「できていない」と感じていらっしゃる保護者の方の意見を真摯に受け止め、100%を目指していく。オクレンジャーでの情報発信については、ご意見を参考に利用者の方が便利と感じられるよう努めていく。

③「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を、保護者の皆様と連携し協力して作成するとともに、日常の支援・指導に活用できていたと思いますか。

<A・B の割合> R5 年度：**100%** R6 年度：**93.9%**

<C・D の割合> R5 年度：**0%** R6 年度：**3.0%**

<E の割合> R5 年度：**0%** R6 年度：**3.0%**

どのようなことを目指した取り組み・支援なのかについて指導計画を通して話をする中で、保護者の皆様との共通理解を図り、本人がいつでもどこでも発揮できる本物の力にしていきたいと考えている。更に分かりやすく、納得していただける説明に努めていきたい。

④学校、保護者、地域および関係機関が情報交換し、児童生徒に支援・指導ができていたと思いますか。

<A・B の割合> R5 年度：**95%** R6 年度：**89%**

<C・D の割合> R5 年度：**2.9%** R6 年度：**4.3%**

<E の割合> R5 年度：**2.2%** R6 年度：**6.7%**

A・B が 6%減など全体的に評価が下がった。情報を共有し連携して支援にあたることの良さを十分感じていただけていない事例があると捉え、支援会議などで「やってよかった」と感じていただけるよう努めていきたい。

⑤児童生徒・保護者の皆様にとって、体罰・いじめ・暴言などのない『安全・安心・信頼される学校』になっていたと思いますか。

<A・B の割合> R5 年度：**94.9%** R6 年度：**93.9%**

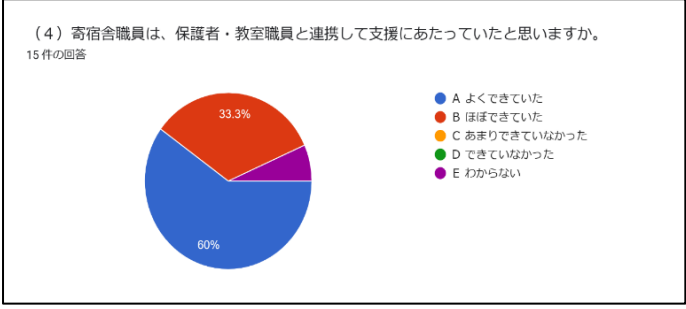
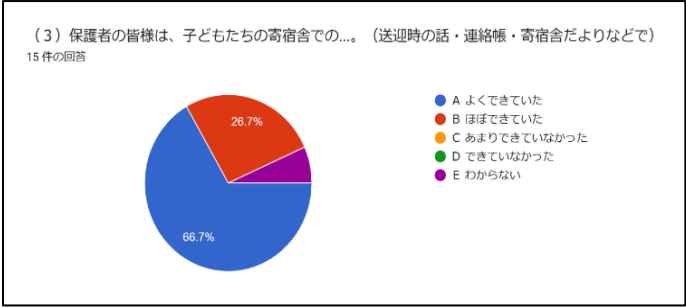
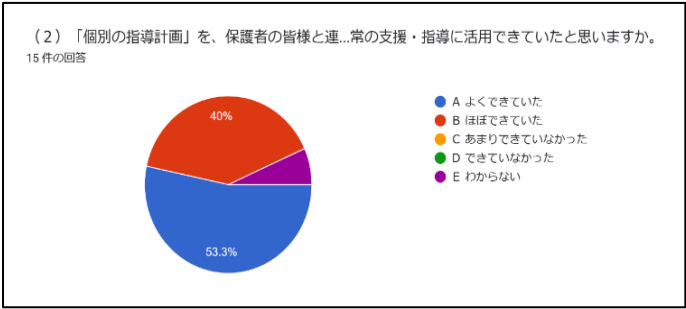
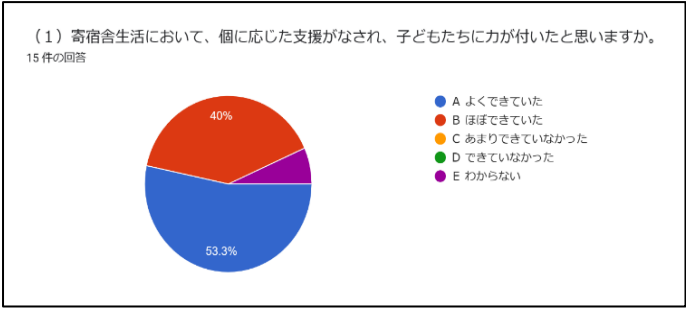
<C・D の割合> R5 年度：**0.7%** R6 年度：**1.2%**

<E の割合> R5 年度：**4.3%** R6 年度：**4.9%**

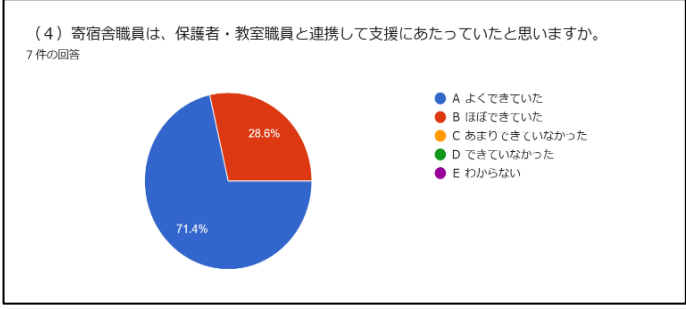
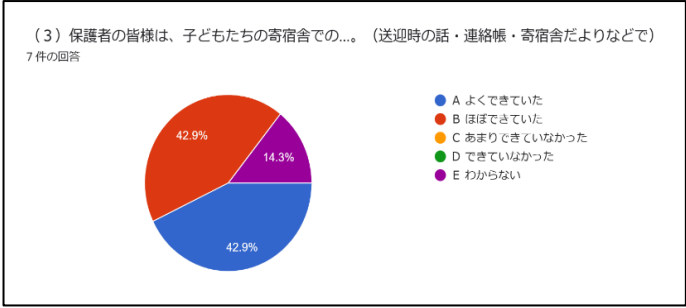
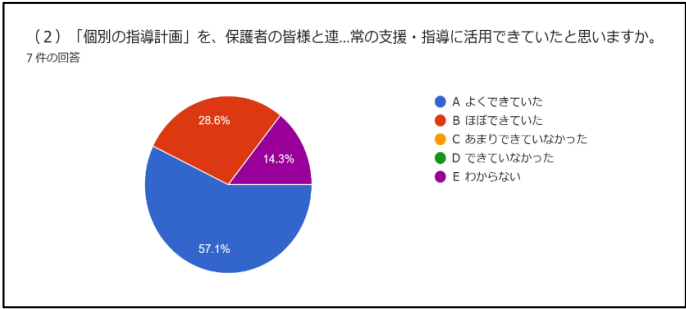
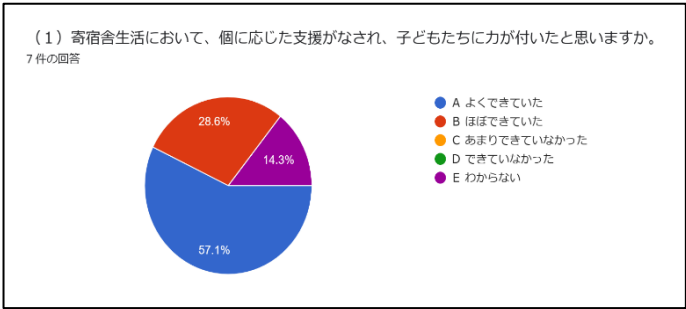
安全・安心は学校の根幹であり、できているが 100%でなければいけないと捉えている。より信頼される学校にしていくために、保護者の皆様からのご意見を真摯に受け止め、学校づくりをおこなっていく。

アンケート集計結果 【寄宿舍保護者】

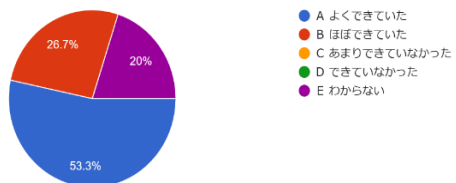
【R 5 年度】



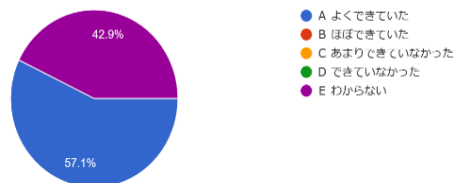
【R 6 年度】



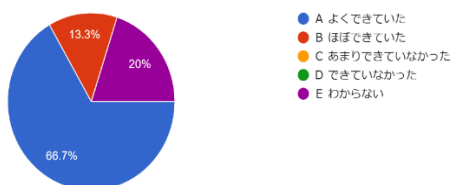
(5) 寄宿舎職員は、体罰・いじめ・暴言などの...人権を大切にした支援をしていたと思いますか。
15 件の回答



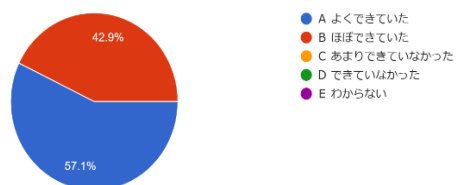
(5) 寄宿舎職員は、体罰・いじめ・暴言などの...人権を大切にした支援をしていたと思いますか。
7 件の回答



(6) 寄宿舎職員は、子どもたちの安全面・健康面に配慮していたと思いますか。
15 件の回答



(6) 寄宿舎職員は、子どもたちの安全面・健康面に配慮していたと思いますか。
7 件の回答



R6 年度 学校自己評価アンケート（寄宿舍）より

○R5 年度の回答数(15) R6 年度の回答数(7)

- ・ Google フォームでの実施 2 年目
- ・ 前日にオクレンジャーで再度呼びかけた

①寄宿舍生活において、個に応じた支援がなされ、子どもたちに力が付いたと思いますか。

<A・B の割合>	R5 年度：93.3%	R6 年度：85.7%
<C・D の割合>	R5 年度：0.0%	R6 年度：0.0%
<E の割合>	R5 年度：6.7%	R6 年度：14.3%

- ・ 総じて AB の評価をいただいているが、E の評価が増えている。
- ・ 個々の取り組みもうとしている課題に対して、支援の根拠となる姿や、支援の具体と支援した結果についてノートや引継ぎ時等で丁寧な発信を心がけていきたい。

②「個別の指導計画」を、保護者の皆様と連携し協力して作成するとともに、日常の支援・指導に活用できていたと思いますか。

<A・B の割合>	R5 年度：93.3%	R6 年度：85.7%
<C・D の割合>	R5 年度：0.0%	R6 年度：0.0%
<E の割合>	R5 年度：6.7%	R6 年度：14.3%

- ・ 総じて AB の評価をいただいているが、E の評価が増えている。
- ・ 個別の指導計画の立案に際しては、取り組みもうとしている課題に留めず、将来的な生活への広がりイメージについて保護者懇談や保護者参観等で共有していきたい。

③保護者の皆様は、子どもたちの寄宿舍での様子を十分に知ることができましたか。(送迎時の話・連絡帳・寄宿舍だよりなどで)

<A・B の割合>	R5 年度：93.4%	R6 年度：85.8%
<C・D の割合>	R5 年度：0.0%	R6 年度：0.0%
<E の割合>	R5 年度：6.7%	R6 年度：14.3%

- ・ 寄宿舍で身についた力が、時や場所が変わっても発揮できることが望ましいと考えているため、総じて AB の評価をいただいていることはありがたい。
- ・ E「わからない」の評価が増えているため、家庭とのやり取りの機会を大切に考え、成長の喜びを共有し合えるように心がけていきたい。

④寄宿舍職員は、保護者・教室職員と連携して支援にあたっていたと思いますか。

<A・B の割合>	R5 年度：93.3%	R6 年度：100%
<C・D の割合>	R5 年度：0.0%	R6 年度：0.0%
<E の割合>	R5 年度：6.7%	R6 年度：0.0%

- ・ AB の回答が 100%であった。教室職員と連携しながら支援を行ってきたことが、保護者に伝わったのではない。
- ・ 寄宿舍、教室、家庭などそれぞれの場での支援が共通となること、生徒にとってわかりやすく、良い姿につながる根拠ととらえ、継続を意識したい。

⑤寄宿舍職員は、体罰・いじめ・暴言などのない、子どもたちの人権を大切に支援をしていたと思いますか。

<A・B の割合>	R5 年度：80.0%	R6 年度：57.1%
<C・D の割合>	R5 年度：0.0%	R6 年度：0.0%
<E の割合>	R5 年度：20.0%	R6 年度：42.9%

- ・ AB の割合が減って、わからないという回答が増えている。CD の様子は 0%なので、保護者に支援の様子が伝わりづらいのではない。
- ・ 寄宿舍の利用は、集団生活において互いに尊重し合う姿を学べる大切な場としてとらえ、自覚をもって子どもたちの人権が大切にされる運営を今後も心がけたい。

⑥寄宿舍職員は、子どもたちの安全面・健康面に配慮していたと思いますか。

<A・B の割合>	R5 年度：80.0%	R6 年度：100%
<C・D の割合>	R5 年度：0.0%	R6 年度：0.0%
<E の割合>	R5 年度：20.0%	R6 年度：0.0%

- ・ AB の回答が 100%であった。寄宿舍生が就寝している夜間や早朝に舍室近くの部屋で 1 名待機したり、安心安全な支援体制について日々確認したりしてきたことが良い評価につながったと考えている。
- ・ より良い寄宿舍運営をめざし、意識を継続していく。

